

クランクベイトの自作3 - マスターブランクの作製 -

1 はじめに

前は作製手順の全体像でした。今回から具体的な方法について掲載していきます。まずはマスターブランクの作製です。

2 マスターブランクの作製

ハンドメイド・ルアーではよくバルサ材が使われます。今回は桐を使いました。バルサより強度はあります。結構、削りやすいです。百元ショップ「セリア」で厚さ7mm、45cm×3.8cmのものを購入しました。百元ショップ「ダイソー」では、厚さ6mmの板が販売されています。異なる厚さが販売されているのありがたいです。

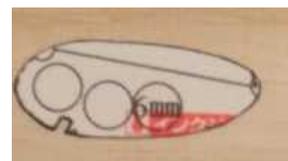
① 型紙の作製

作りたい形をイメージして型紙を作ります。私の場合は、図形ソフト「花子」を使って書きました。右図がその型紙です。これは横から見た図です。ややずんぐりした形になっています。直径6mmのおもりを入れるためにずんぐりな形になってしまいました。



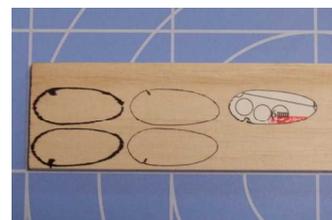
ちなみにおもりは、直径6mmの鉛の球と直径6mmのステンレス球です。ここに至るまでに、いくつも試作品を作ってきました。釣りで使用するガン玉やジントンも使ってみました。もっとスマートな形の試作品も作りました。とりあえず、この形に落ち着きました。

右の写真は実際の型紙です。使用済みの年賀状に印刷してあります。円はおもりの位置を示しています。(ただし、今回、作製するのはおもり2個です。) 直線はワイヤーフレーム(ラインアイ、フックアイを付けるもの)の位置を表しています。下の切れ込みはリップの位置です。リップの位置の切り込みは役に立ちませんでした。不要です。



② 型紙をなぞって桐の板に形を書く。

型紙を切り取って、桐の板になぞります。一つのマスターブランクを作るのに、2枚必要です。左右を貼り合わせて削るからです。



③ 両面テープで板を貼り合わせて削る。

2枚の板を両面テープであり合わせて削ります。大きめのカッターナイフで十分削ることができます。



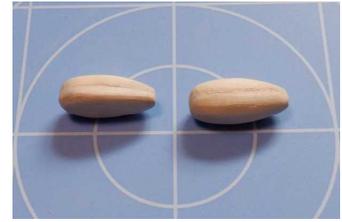
④ サンドペーパーで表面をなめらかにする。

百元ショップで購入したサンドペーパーで表面をなめらかにします。最初は、360番で磨き、仕上げは1000番で磨きます。サンドペーパーは木片に巻くと扱いやすいです。



⑤ ルアーの幅を細くする。(この工程は不要です。)

当初、予定していたのが幅12mm(6mmを2枚)だったのですが、間違えて、厚さ7mmの板を買ってしまったので、マスターブランクの幅を削ることにしました。ノギス(100円ショップ「ダイソー」にて購入)を使って、削っては測りの繰り返しです。なお、たくさん削るときは、サンドペーパーを机において木を動かす、細やかに削るときは、木を手を持ってサンドペーパーを動かすと上手くいきました。



写真の右は幅が14mmです。幅を細く削り取って幅12mmにしたものが左側のものです。

3 終わりに

ここに至るまでの試作品はバルサを使っていました。今回は百円ショップで購入することができるということで桐を使いました。桐はバルサより硬いですが、大型のカッターナイフで十分削ることができました。サンドペーパーでの磨きもそれほどたいへんだったということはありませんでした。

写真は、右が形を作る前、中央が形を作りサンドペーパーで表面を磨いた物、左が幅を2mm狭くしたものです。

次回は、ブランクの型の作り方です。

